

		<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。（福祉施設共通） ・内部監査を実施し、サービス関係、経理処理関係の監査を行った。25年度は重点項目として県外旅費、県借用品台帳、未収金関係について確認を行った。（各所属共通） ウ 効果的・効率的な運営 <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所等の訪問を行い、利用率確保に努めた。 ・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。 ・消耗品などの購入に関しては、事業団の病院・福祉施設含む全体で一括して入札し単価契約を結ぶなど、費用の削減に努めた。（各所属共通）
<p>3</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">（指定管理業務）</p>	<p>福祉施設の機能充実 (2) 七沢療育園 ア 総合性・高度専門性の発揮 重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重度心身障害児・者を対象とし、神奈川リハビリテーション病院との一体的な運営により、保護・治療・日常生活の指導と医学的リハビリテーションを提供し、障害の軽減や回復を図るとともに、在宅重症心身障害児者とその家族を支援する。 全身性の医療管理と看護が必要な超・準重症心身障害児者の受け入れや、在宅重症心身障害児者を支援するための期限を設けた利用（中期入所（※）5床、短期入所1床）を行う。（※中期入所：期間が決められた回転型の入所機能による地域生活者支援として実施）</p> <p>イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策 個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。</p> <p>ウ 効果的・効率的な運営 採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の削減対策に取り組む</p>	<p>ア 総合性・高度専門性の発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度の知的障害と重度の肢体不自由を併せ持つ重度重複障害児者に対する支援を行うとともに、人工呼吸器や経管栄養法等全身の管理が必要な超・準重症心身障害児者の受入や、中短期入所による通過型の支援により地域の在宅児者の支援を行った。 ・40床のうち10床を中短期入所枠とし、在宅重症心身障害児者の在宅生活の継続や課題解決に向けた支援を展開している。地域のニーズは高く、期待される役割は大きい。（下半期1,341人、一日平均8.7人・年間2,760人、一日平均7.6人の利用があった。） ・超・準重症心身障害児者の受入については、中期入所を含め、下半期平均では14.2人（最大15.5人（計画10人））の受入を行い支援した。在宅からの中短期入所者の低年齢化、医療重度化が進み、バイタルサインを計測するモニターなどの医療用機器が必須となっており、レンタル等での対応を行っている。また、入所前に地域支援班と看護師が家庭訪問を行い、事前に情報収集、スタッフ間で情報の共有化等の事前準備を行い、保護者、利用者、スタッフにとっても安心、安全な入所につなげている。 ・県の委託により重症心身障害児者の巡回訪問を実施し、個人宅及び作業所、特別支援校などを訪問した。（下半期38回実施・年間73回実施） イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護、人権擁護等について、研修の他、朝のミーティング時に対応等への意識付けを行っている。 ・施設利用者の医療重度化に対応するため、人工呼吸器の取扱研修などを行った。 ウ 効果的・効率的な運営 <ul style="list-style-type: none"> ・療育訪問指導事業等で施設利用相談を進め、利用に繋がっている（「再掲 下半期38回実施・年間73回実施」） ・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。（下半期累計371人・年間693人の利用）

<p>4</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(指定管理業務)</p>	<p>福祉施設の機能充実</p> <p>(3) 七沢更生ライトホーム</p> <p>ア 総合性・高度専門性の発揮</p> <p>肢体不自由者及び視覚障害者を対象に、更生に必要な医学的・職業的・社会的リハビリテーションを神奈川リハビリテーション病院と連携して総合的に提供し、社会復帰（職業や家庭生活）への手助けをするとともに、在宅障害者の自立を支援する。</p> <p>肢体不自由者については、脊髄損傷者や高次脳機能障害を持つ重度の肢体不自由者等を対象とし、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、就労、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるよう努め、障害者の社会復帰に向けた支援を行なう。</p> <p>中途視覚障害者については、糖尿病等の医療管理を要する者、高次脳機能障害を併せ持つ者やロービジョン（弱視）者等を対象とし、社会生活力の向上を目指して、歩行能力の回復、点字の読み書き習得、情報機器の活用、身辺管理・家事動作技術の習得、ロービジョン評価・訓練、視覚障害者スポーツ、職業復帰に向けた支援など地域での在宅生活に向けての支援を行う。</p> <p>イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策</p> <p>個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。</p> <p>ウ 効果的・効率的な運営</p> <p>採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む</p>	<p>ア 総合性・高度専門性の発揮</p> <p>・【身障者の利用状況】</p> <p>病院を退院したものの自宅での生活が困難な頸髄損傷、高次脳機能障害、脳血管障害等による重度の肢体不自由者に対し、病院に引き続く医療的リハビリテーションを行うとともに、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、地域生活（家庭生活）が営めるよう支援を行った。下半期の退所者27人（障害別内訳 脊損7人、脳外傷1人、脳血管障害12人、脳性麻痺2人、その他神経疾患5人）（通所者については下半期2人退所）年間退所者49人（障害別内訳 脊損12人、脳外傷3人、脳血管障害20人、脳性麻痺5人、その他神経疾患等9人）（通所者2人退所）</p> <p>・【視覚障害者の利用状況】</p> <p>疾病等による中途の視覚障害者に対し、感覚訓練、歩行訓練等によるリハビリテーションにより、地域生活が営めるよう支援を行った。下半期の退所者数6人（別に通所5人が退所した）年間退所者13人（通所者13人退所）</p> <p>・地域生活に向けた取組により、肢体不自由者については、下半期退所者27名のうち24名（88.9%）・年間退所者49名のうち41名（83.7%）の利用者が家庭、グループホームを活用した地域生活に移ることが出来た。視覚障害者については、下半期の退所者6人中5人（83.3%）・年間退所者13名のうち10名（76.9%）が家庭に復帰することが出来た。</p> <p>・また、入院中に賃貸住宅の期限切れや離縁などで住居を失った重度の障害者に対し、地域において単身生活ができるよう支援を行った。（下半期の単身者の地域移行：肢体不自由者8名、視覚障害者2名、年間の単身者の地域移行：肢体不自由者14名、視覚障害者4名）</p> <p>・神奈川リハ病院眼科外来と連携し、ロービジョン（低視覚障害）者の相談・技術支援等を行った。</p> <p>・県が進めている「さがみロボット産業特区」について、当センターは、医療・介護用ロボットの実証試験機関として位置づけられている。パワーアシストハンド（チームアトム）をはじめ、心の体温計（P S T株式会社）、盲導犬ロボット（日本精工）等一般企業のロボット開発に対し、製品評価を行うなどの開発支援を行った。このうち、盲導犬ロボットに対しては視覚障害者の特性などを考慮した専門的評価、アドバイスをを行うなど、県が進めている産業育成に貢献した。</p> <p>イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策</p> <p>・人権擁護・虐待防止についての職員研修を実施した。</p> <p>ウ 効果的・効率的な運営</p> <p>・地域医療機関説明会、見学会などを実施し、利用率の向上に努めた。</p> <p>・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。</p> <p>・地域の回復期リハ病棟を訪問し、利用者確保を図った。</p>
--	--	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・施設機能の広報及び利用者の開拓を目的に視覚障害者の生活訓練体験会を実施した。 ・国立相模原病院の外来通院患者および家族を対象に、国立相模原病院、神奈川リハ病院、ライトホームの合同で、「生活訓練体験会」を実施した。 ・視覚障害部門オープンセミナーとして、利用者の拡大を目的に、医療関係者を対象に支援技術と施設機能の紹介を行った。
5	<p>病院の機能充実</p> <p>(1) 神奈川リハビリテーション病院</p> <p>ア 総合性・高度専門性の発揮</p> <p>民間医療機関での対応が難しい脊髄損傷、脳外傷（高次脳機能障害）、骨・関節疾患や神経疾患等の重度・重複障害を持つ方の早期社会復帰を可能とする総合的かつ高度専門的なリハビリテーション医療を提供し、県民サービスの充実を目指す。</p> <p>イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策</p> <p>個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。</p> <p>ウ 効果的・効率的な運営</p> <p>採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む</p>	<p>ア 総合性・高度専門性の発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脊髄損傷、外傷性脳損傷（高次脳機能障害）、変形性股関節症（手術を含む）、神経疾患、小児神経疾患等のリハビリテーションを行うとともに、多診療科による障害者の総合診療・総合医療の提供を行った。 ・多職種によるチームアプローチにより、医療の提供を行うとともに、医療的リハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、家庭復帰、復職・復学等、地域での生活が営めるよう、個々人のニーズや残存機能に応じた支援を行った。 ・退院患者のうちの主な疾患患者数（年間） 脊髄損傷：114人（内頸髄損傷60人）、高次脳機能障害：208人、小児神経疾患：98人、神経難病：49人、その他、変形性股関節症他：719人 ・退院患者のうち87.5%が自宅退院出来た。 ・就労支援の下半期実績について、就職・復職者は、新規就労9名、復職19名、年間実績では新規就労14名、復職32名であった。 ・総合療育相談センター（身体障害者更生相談所）が行う身体障害者の補装具作成に伴う評価判定の協力として、医師、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどが関わり、電動車いす（対応総数120件・評価判定7件）と重度障害者意思伝達装置（対応総数6件・評価判定1件）の評価判定を行った。 ・県が進めている「さがみロボット産業特区」について、当センターは、医療・介護用ロボットの実証試験機関として位置づけられている。パワーアシストハンド（チームアトム）をはじめ、心の体温計（P S T株式会社）、盲導犬ロボット（日本精工）等一般企業のロボット開発に対し、製品評価を行うなどの開発支援を行った。さらに、高齢社会課が進める介護ロボット普及センター事業にも協力し、ロボットスーツHALを両病院で使用し、利用評価、事例蓄積等を行った。神奈川リハ病院では、脊髄損傷患者に対するHALの臨床評価の実績がきわめて高く、開発したサイバーダイン、筑波大学へのフィードバックを行い、県の進める産業育成に貢献した。 ・脊髄損傷、高次脳機能障害、変形性股関節症（術中を含む）、小児脳損傷、脳血管障害に対応したクリニカルパスにより、患者にとってわかりやすい医療を提供するとともに、平均在院日数の短縮、安定的治療、ベッドコントロールの円滑化を図った。

- イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策
- ・日本医療機能評価機構の認定病院として、病院機能の向上、患者サービスの向上に向けた取り組みを図った。
 - ・医療安全推進室のリスクマネージャーを中心に、ヒヤリ・ハット事例を含むすべての事故事例をインシデント・アクシデント・クレームレポートとして報告する制度により、事故事例の分析などを通じて事故の再発防止に取組み、安全安心な医療サービスの提供に取り組んだ。(両病院共通)
 - ・アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。(両病院共通)
 - ・入院患者満足度調査、外来患者満足度調査を実施した。(両病院共通)
入院患者満足度調査は10月7日から18日まで行い回答率73.6%(142人/193人)であった。外来満足度調査は1月20日から24日まで行い回答率は81.8%(517人/632人)であった。
 - ・感染対策マニュアルや医療安全マニュアルによる安全対策を実施している。(両病院共通)
 - ・医療安全対策の取組みとして、離院、離棟搜索訓練、医療安全研修、医薬品安全使用チェックリストに基づく業務点検等を行った。(両病院共通)
 - ・リハセンター全体で、大規模震災を想定した総合防災訓練を実施し、大災害時の対応方法等の検証を行った。(各所属共通)
- ウ 効果的・効率的な運営
- ・利用率当初計画の達成に向けて、次のとおり取り組んだ。
- ①患者の確保に向け、近隣病院への入院案内(申込書)の発送、ソーシャルワーカー等を対象とした説明会を開催し、当院の機能と対象患者、入院手続きの説明を行った。
 - ②入院審査会を毎日開催し、患者の早期受け入れに努めた。
 - ③ドクターtoドクターによる紹介患者の早期受入
 - ④ソーシャルワーカーの事前患者情報収集の強化、急性期病院に入院中から、患者情報を収集し、病態、生活環境などを把握し、患者受入手続きの円滑化を図る。
 - ⑤ベッドコントロールの実施
 - ・ニーズの高い小児科のベッド拡大
 - ・診療科の枠を超えたベッド利用の推進
 - ・在宅難病患者の緊急一時入院の協力
 - ・他科の病棟の活用による利用率向上
 - ・看護師の病棟間支援、柔軟な配置による他科病棟への業務支援
 - ⑥PFM(patient flow management)の導入による、入院患者への看護師業務の効率化の実施
 - ⑦看護配置の調整など院内の調整を行い、亜急性期入院医療管理料を導入し、収入増を図った。
 - ⑧小児科1日検査入院の実施
 - ⑨査定減対策の実施 査定減の原因をレセプトと照合し、診療科にフィードバック
 - ⑩未収金対策の実施

		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや広報誌による広報活動の充実を図った。（両病院共通） ・薬品については、県立病院全体での入札による単価契約に基づき購入するなど、費用の削減に努めた。（両病院共通） ・検査試薬、診療材料は、事業団2病院で入札による単価契約を結び、費用の削減に努めた。また、後発医薬品の購入等の促進に取り組んだ。（両病院共通） ・夜勤専門看護職員を雇用するなど多様な雇用形態に努めた。（両病院共通）
6	<p>病院の機能充実 (2) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター ア 総合性・高度専門性の発揮 脳卒中のリハビリテーション専門病院として、脳卒中の予防から発症後のリハビリテーション、退院後の社会（家庭）復帰までの一貫した包括的・先進的な医療を提供し、県民サービスの充実を目指す。</p> <p>イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策 個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。</p> <p>ウ 効果的・効率的な運営 採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む</p>	<p>ア 総合性・高度専門性の発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣改善による脳卒中の予防から発症後の回復期にある患者に対するリハビリテーション、さらには退院後の機能低下に対する再訓練を行うとともに、高次脳機能障害や合併症による重度・重複障害の社会復帰に向けた支援を行った。 ・多職種によるチームアプローチにより、医療の提供を行うとともに、医療的リハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、家庭復帰、復職等、地域での生活が営めるよう、個々人のニーズや残存機能に応じた支援を行った。 ・下半期退院患者276人のうち228人（82.6%）が自宅退院出来た。年間では退院患者614人のうち491人（80.0%）が自宅退院できた。 ・入院患者の多くに何らかの高次脳機能障害を有しているため、臨床心理士、PT、OT、ST、看護師等による総合的アプローチを実施した。 ・医療の質の向上を図るため、クリニカルパスによる入院から退院までの一貫した流れを図式化し、患者を含め情報を横断的に共有することで入院期間の短縮やチーム医療の徹底が図った。 <p>《クリニカルパスの種類》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中リハビリテーションクリニカルパス ・生活習慣改善入院クリニカルパス <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣改善入院の機能により、脳卒中の予防に努めた。（下半期：実11人・延237人、年間：実27人・延869人） ・「摂食・嚥下外来」や「禁煙外来」の専門外来を実施した。 ・県が進めている「さがみロボット産業特区」について、当センターは、医療・介護用ロボットの実証試験機関として位置づけられている。パワーアシストハンド（チームアトム）をはじめ、心の体温計（PST株式会社）等一般企業のロボット開発に対し、製品評価を行うなどの開発支援を行った。 さらに、高齢社会課が進める介護ロボット普及センター事業にも協力し、ロボットスーツHALを両病院で使用し、利用評価、事例蓄積等を行った。 特に七沢病院は、パワーアシストハンド、心の体温計については、中核となって受入れ、開発企業にフィードバックを行い産業育成に貢献した。

・県内医療機関MSWを対象とした見学会の開催、自立支援協議会の参加等で地域関係機関との連携を図った。

・脳血管疾患患者の早期受け入れに向けて、救命救急センターとの連携強化に取り組んだ。

・医療安全の向上のため、研修を開催し、医療従事者として必要な知識の向上に努めた。

・脳卒中地域連携パスの推進として、県内10グループ全てに参加するなどの取組みを行った。

イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策

・入院患者の早期離床、ADL向上の促進のため、土曜日リハビリテーション訓練を実施した。

・リハスタッフと看護職員が連携し、病棟内リハビリテーション訓練を実施した。

ウ 効果的・効率的な運営

・回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰの施設基準を算定することにより、より重度の患者への対応を行うとともに収益増を図っている。(平成24年度)

回復期リハⅡ：1761点→回復期リハⅠ：1911点

①入院審査会を毎日開催し、特段の理由がない限り受け入れを行った。

②ドクターtoドクターによる紹介患者の早期受入

③入院患者確保対策(54病院に対して隔週空床情報をFAXで送付等)

④患者の確保に向け、県内脳卒中連携パスの会議への参加

⑤MSWと事務による病院訪問、パンフレット送付を行った。

⑥入院コーディネーターの充実により、入退院の円滑化を図った。

⑦査定減対策の実施 査定減の原因をレセプトと照合し、診療科にフィードバックした。

⑧未収金対策を実施した。

・脳卒中公開講座の開催により、一般県民向けに脳卒中予防や病院の機能紹介を行った。

・毎月施設の利用状況及び収入分析について経営会議で報告し、適切な施設経営に努めた。

<p>7</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(指定管理業務)</p>	<p>地域支援機能 総合性・高度専門性の発揮</p> <p>地域のリハセンターとして市町村が実施する地域リハビリテーションシステムの基盤整備事業の推進を図るための支援や技術援助を行い、障害を持つ方々の地域での自立生活を支えていく。</p> <p>また、県の指定する「神奈川県リハビリテーション支援センター」として、全県的な立場から地域を支援するため、</p> <p>①リハビリテーション情報の収集・提供、 ②リハビリテーション専門相談、 ③リハビリテーション人材の養成等、 神奈川県下のリハビリテーションシステムの構築に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リハセンターがこれまで培った技術・知識を地域に還元し地域リハ推進を支援するため、専門職種に対する研修、専門相談、情報の提供を行うとともに、必要に応じて地域の個別困難事例に地域のスタッフとともに取り組んだ。 (下半期実績 専門相談対応延件数393件、専門研修16項目・実616人延704人受講) (年間実績 専門相談対応延件数683件(相談件数295件)、専門研修30項目・実1,331人延1,490人受講) ・県の高次脳機能障害支援拠点として、支援方法の普及、地域連携支援を行うとともに、県単事業として巡回相談、関係機関コンサルテーション、地域ネットワークづくりに取り組んだ。 ・神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会の開催 地域支援ネットワークの充実を図る ・高次脳機能障害相談支援コーディネーターの配置により、個別支援、地域支援、研修、地域連携を柱にした事業を実施した。 ・下半期実績 依頼元件数110件(家族本人60件、医療機関20件、地域相談窓口14件、介護保険関係機関5件、市町村他 1 1 件) ・年間実績 依頼元件数276件(家族本人138件、医療機関70件、地域相談窓口32件、介護保険関係機関14件、市町村他22件) ・政令指定都市との連携や自立支援協議会との連携、当事者団体との連携を行った ・新規研修の開催、出前研修を実施し参加しやすく工夫するなど専門職員研修を充実させた。 ・地域リハビリテーション推進モデル事業を実施している足柄上地区において、地域の保健師やケアマネジャーを対象に市町村を巡回し、福祉用具や家屋改修、家庭での生活方法など相談を行った。また、足柄上地区のケアマネジャー連絡会において、「高次脳機能障害者への支援」として講演や、「リハビリテーションの視点からの動作介助技術」で看護、介護職を対象に講演を行った。 ・地域包括支援センター連絡会に参加し情報共有を進めた。 ・かながわ地域リハ支援連絡会を開催した。県内の地域リハを推進する、当リハセンターと横浜市リハセンター、川崎市北部リハセンター、れいんぼう川崎、相模原市による定例の情報交換会で、相互の地域で自宅復帰した患者の情報共有や福祉サービスの調整ができる事を目的とする。神奈リハにて開催した際は七沢病院、神奈川リハ病院、福祉施設職員などの94名が参加した。 ・2月に一般県民等に向けたかながわ地域リハビリテーションフォーラムを開催し、特別講演とシンポジウムを行った。 特別講演「すべての人が安心して住み慣れた地域で暮らしていくために」シンポジウム「地域包括ケアにリハビリテーションを」 ・ホームページの情報を充実するとともに、facebookを開設し、タイムリーに地域専門職への情報発信できるようにした。また「地域支援センターだより(広報誌)」により、リハビリテーション情報の提供を実施した。
--	---	---

<p>8</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(指定管理業務)</p>	<p>研究機能 総合性・高度専門性の発揮 医療と福祉を一体的に運営しているという特徴を生かし、医学的・工学的・社会福祉学的領域において、関係機関と連携して臨床的、実践的な調査・研究・開発を展開します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病院・福祉施設であるリハセンターとして、臨床的・実践的な研究・開発を推進している。 <p>【研究テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害児者におけるリハビリテーションアプローチに関する研究 (2) 障害児者に関する計測的・工学的研究 (3) 障害児者に関する移動及び姿勢制御等の研究 (4) 福祉機器の開発及び評価支援システムに関する研究 (5) 障害児者の生活の質に関する研究 (6) ロボットによる支援リハビリテーションアプローチの研究 <p>【他大学等との連携した研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 佐賀大学医学部准教授松尾清美・株式会社岡村製作所 「足駆動による短距離移動が容易な椅子の開発」 <p>【各種委員会における共同研究等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成25年度国際標準共同開発事業への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・車いす座位変換機能国際標準開発分科会への委員参加 ・平成25年度シルバーカー国際標準開発分科会への委員参加 ○ 平成25年度社会環境整備型規格開発事業への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・シルバーカーJIS開発委員会への委員参加 ・車いす寸法JIS開発委員会への委員参加 ・車いす附属品JIS開発委員会への委員参加 <p>・「リハ工学福祉機器フェスティバル」(H25.10.5)を開催した。最新福祉機器の展示・体験、リハビリテーション工学の体験(義足体験、歩行分析等)、障害者スポーツ体験など、一般企業と協力して開催し福祉機器の紹介を行い障害者の生活の向上に貢献した。</p> <p>・県が進めている「さがみロボット産業特区」について、当センターは、医療・介護用ロボットの実証試験機関として位置づけられている。研究部では、北里大学が進めている見守りロボットの製品評価に関わり、県が進めている産業育成に貢献した。</p> <p><リハ工学関係～車いす開発に関する研究 主な学会発表></p> <p>第28回リハ工学カンファレンス発表 8月 「腹臥位姿勢による車いすの試み」 「重度心身障害者施設での腰痛防止にむけた環境整備」 「第1回移動機器フェスティバルへの取り組み」</p> <p>第29回日本義肢装具学会発表 10月 「ティルト&リクライニング式車いすへ小回り性能向上の試み」 「義肢装具での歩行と車いすでの移動を創る～歴史から未来を考える～」 「座面高の設定が車いす座位での両下肢交互駆動に与える影響について」</p>
--	--	--

(2) 月例報告書による確認状況

報告月	受理日	確認 通知日	確認方法			指 導 等 の 有 無	備考（指導事項等）
			月報 確認	現場 確認	電話 確認		
10月	12月5日	3月26日	○	—	—	無	
11月	1月6日	3月26日	○	—	—	無	
12月	2月5日	3月26日	○	—	—	無	
1月	3月5日	4月1日	○	—	—	無	
2月	4月4日	5月13日	○	—	—	無	
3月	5月2日	6月10日	○	—	—	無	

※基本協定書上の月報等提出期限

翌々月 の 5 日まで

2 収支状況

評価 B

(評価の目安)

収支計画（支出額）と比較して

- A：収支状況が良好である（収支差額のプラスが10%以上）。
- B：概ね計画どおりの収支状況である（収支差額がプラスマイナス10%未満）。
- C：計画と異なり、収支差額に10%以上20%以下のマイナスが生じている。
- D：計画と異なり、収支差額に20%を超える大幅なマイナスが生じている。

単位：千円

		収入額（自主事業収入は除く）				支出額	うち納付金	収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入	収入合計			
募集時の県積算額 (参考)		6,059,167	6,533,143	0	12,592,310	12,592,310		0
年度計画	前年度	4,602,788	6,232,031	53,421	10,888,240	10,888,240	0	0
	上半期	2,128,065	3,116,016	26,710	5,270,791	5,270,791		0
	下半期	2,474,723	3,116,015	26,711	5,617,449	5,617,449		0
	今年度	4,462,661	6,267,966	52,516	10,783,143	10,783,143	0	0
	上半期	2,070,162	3,133,983	26,258	5,230,403	5,230,403		0
	下半期	2,392,499	3,133,983	26,258	5,552,740	5,552,740		0
通年実績	上半期合計	2,070,162	2,899,610	26,528	4,996,300	4,568,303		427,997
	対収支計画比	0.0%	▲ 7.5%	1.0%	① ▲ 4.5%	② ▲ 12.7%	③	8.2%
	10月	222,281	479,364	3,879	705,524	744,228		▲ 38,704
	11月	234,396	446,093	9,378	689,867	696,209		▲ 6,342
	12月	935,774	426,442	3,073	1,365,289	1,295,654		69,635
	1月	291,518	434,890	2,583	728,991	791,620		▲ 62,629
	2月	288,261	452,057	3,566	743,884	681,085		62,799
	3月	228,516	480,251	12,880	721,647	957,203		▲ 235,556
	下半期合計	2,200,746	2,719,097	35,359	4,955,202	5,165,999	0	▲ 210,797
	対収支計画比	▲ 8.0%	▲ 13.2%	34.7%	① ▲ 10.8%	② ▲ 7.0%	③	▲ 3.8%
通年合計	4,270,908	5,618,707	61,887	9,951,502	9,734,302	0	217,200	
対収支計画比	▲ 4.3%	▲ 10.4%	17.8%	① ▲ 7.7%	② ▲ 9.7%	③	2.0%	
参考	前年度 下半期実績合計	2,368,989	2,974,206	39,339	5,382,534	4,895,767		486,767
	対前年度 下半期実績比				▲ 7.9%	5.5%		

※その他収入の内容 受取預金、雑収入等

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

収支状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	収支計画と異なる理由等
① 収入の増減（収支計画対比±10%以上）	×	○	×	病院事業における入院患者の減による減のため。
② 支出の増減（収支計画対比±10%以上）	○	×	×	（参考：上半期理由）新陳代謝による人件費支出の減及び利用者の減による病院材料費の支出減のため。
③ 収支差額のマイナス（収支計画収支差額対比）	×	○	×	自己収入減による減のため。

<参考>

本施設について県が支出した（する）計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等
 基本協定において、県が負担することとしている修繕費等：100,000円以上

	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
上半期	0	
下半期	10,043	七沢病院・新館東側非常階段他鉄部塗装工事(3,459千円) 神奈川リハ病院エリア・第一駐車場アスファルト舗装改修工事(4,095千円) 神奈川リハ病院エリア・西側構内フェンス交換工事(2,489千円)
合計	10,043	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額（千円）	内容
収入	0	
	0	
	0	
	0	
支出	0	
	0	
	0	
	0	
積立等	0（期首）	
	0（期末）	

収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等

支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立て等

積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

3 利用状況

(1)七沢学園 (児童・入所)

評価 **B**

(評価の目安)

今年度下半期利用者数が、
目標対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～ 95%未満
- D : 85%未満

目標利用者数等を設定していない場合、前年同期対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～ 95%未満
- D : 85%未満

入所施設等定員がある場合、定員比で

- A : 100%
- B : 90%以上
- C : 80%以上
- D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	864 人	898 人	96.2 %
11月	838 人	868 人	96.5 %
12月	797 人	881 人	90.5 %
1月	799 人	924 人	86.5 %
2月	743 人	865 人	85.9 %
3月	861 人	926 人	93.0 %
合計	4,902 人	5,362 人	91.4 %

	利用者数	前年同期利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
下半期計	4,902 人	5,362 人	4,914 人	① 99.8 %	② 91.5 %
上半期計	5,104 人	5,151 人	4,941 人	① 103.3 %	② 99.1 %
合計	10,006 人	10,513 人	9,855 人	① 101.6 %	② 95.2 %

※目標値の設定の有無

期間	設定している	その他の場合の期間
基準	通年 指定管理者提案値	その他の場合の基準

利用状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標値対比増減率105%以上または95%以下)	×	×	×	
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	×	○	×	政令市の相模原市が児童施設を新設し、同市からの受け入れ児童が12月末を目途に施設移転(退所)したことにより減となった。

<参考>

施設の最大利用可能人数

							合計
定員(1日あたりの延べ人数)							0
年間利用可能日数							
最大人数	0	0	0	0	0	0	0
半期	0	0	0	0	0	0	0

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

(2)七沢学園 (児童・地域支援【短期入所、家族短期、家族一日、日中一時支援】)

評価 **D**

(評価の目安)

今年度下半期利用者が、
目標対比増減率で
A : 105%以上
B : 95%以上～105%未満
C : 85%以上～95%未満
D : 85%未満

目標利用者数等を設定していない場合、前年同期対比増減率で
A : 105%以上
B : 95%以上～105%未満
C : 85%以上～95%未満
D : 85%未満

入所施設等定員がある場合、定員比で
A : 100%
B : 90%以上
C : 80%以上
D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	32 人	71 人	45.1 %
11月	53 人	64 人	82.8 %
12月	44 人	84 人	52.4 %
1月	51 人	41 人	124.4 %
2月	55 人	58 人	94.8 %
3月	57 人	97 人	58.8 %
合計	292 人	415 人	70.4 %

	利用者数	前年同期利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
下半期計	292 人	415 人	606 人	① 48.2 %	② 70.4 %
上半期計	373 人	515 人	606 人	① 61.6 %	② 72.5 %
合計	665 人	930 人	1,212 人	① 54.9 %	② 71.6 %

※目標値の設定の有無

期間 設定している 通年 指定管理者提案値
 期間 その他の場合の期間
 基準 その他の場合の基準

利用状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標値対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	七沢学園居住棟側で実施している短期入所については大幅な変動は無いが、七沢学園訓練棟の宿泊施設を利用する家族一日入所、家族短期入所は、平成25年9月以降、新福祉棟移転に伴う訓練棟除却のための準備工事並びに居住棟への訓練部門や養護学校訪問部の移転を実施したため、施設改修が終了するまでの間、計画を休止したことにより減となった。
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	七沢学園居住棟側で実施している短期入所については大幅な変動は無いが、七沢学園訓練棟の宿泊施設を利用する家族一日入所、家族短期入所は、平成25年9月以降、新福祉棟移転に伴う訓練棟除却のための準備工事並びに居住棟への訓練部門や養護学校訪問部の移転を実施したため、施設改修が終了するまでの間、計画を休止したことにより減となった。

<参考>

施設の最大利用可能人数

							合計
定員(1日あたりの延べ人数)							0
年間利用可能日数							
最大人数	0	0	0	0	0	0	0
半期	0	0	0	0	0	0	0

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

(3) 七沢学園 (成人・入所)

評価 **C**

(評価の目安)

今年度下半期利用者数が、
目標対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～95%未満
- D : 85%未満

- 目標利用者数等を設定していない場合、前年同期対比増減率で
- A : 105%以上
 - B : 95%以上～105%未満
 - C : 85%以上～95%未満
 - D : 85%未満

- 入所施設等定員がある場合、定員比で
- A : 100%
 - B : 90%以上
 - C : 80%以上
 - D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	1,520 人	1,419 人	107.1 %
11月	1,470 人	1,401 人	104.9 %
12月	1,508 人	1,448 人	104.1 %
1月	1,488 人	1,366 人	108.9 %
2月	1,316 人	1,177 人	111.8 %
3月	1,414 人	1,300 人	108.8 %
合計	8,716 人	8,111 人	107.5 %

	利用者数	前年同期利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
下半期計	8,716 人	8,111 人	9,828 人	① 88.7 %	② 107.5 %
上半期計	9,414 人	8,752 人	9,882 人	① 95.3 %	② 107.6 %
合計	18,130 人	16,863 人	19,710 人	① 92.0 %	② 107.6 %

※目標値の設定の有無

	設定している	
期間	通年	その他の場合の期間
基準	指定管理者提案値	その他の場合の基準

利用状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標値対比増減率105%以上または95%以下)	×	○	○	平成27年度に新福祉棟に移転する計画の中で就労移行支援事業の終了と入所定数の60名から30名への削減を予定しており、就労移行対象者の受け入れが難しいこと、施設利用者の短期間での地域移行は難しいことなどから入所対象者の漸減措置を図ったことにより減となった。
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	新福祉棟への移転を踏まえ、生活介護、就労移行の受入を縮小し、生活訓練対象者の入所受け入れを26年1月以降に促進したことにより増となった。

<参考>

施設の最大利用可能人数

							合計
定員(1日あたりの延べ人数)							0
年間利用可能日数							
最大人数	0	0	0	0	0	0	0
半期	0	0	0	0	0	0	0

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

(4) 七沢学園 (成人・地域支援【短期入所、日中一時支援】)

評価 **A**

(評価の目安)

今年度下半期利用者が、
目標対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～95%未満
- D : 85%未満

- 目標利用者数等を設定していない場合、前年同期対比増減率で
- A : 105%以上
 - B : 95%以上～105%未満
 - C : 85%以上～95%未満
 - D : 85%未満

- 入所施設等定員がある場合、定員比で
- A : 100%
 - B : 90%以上
 - C : 80%以上
 - D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	79 人	59 人	133.9 %
11月	92 人	102 人	90.2 %
12月	108 人	87 人	124.1 %
1月	105 人	72 人	145.8 %
2月	117 人	58 人	201.7 %
3月	97 人	71 人	136.6 %
合計	598 人	449 人	133.2 %

	利用者数	前年同期利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
下半期計	598 人	449 人	180 人	① 332.3 %	② 133.2 %
上半期計	463 人	385 人	180 人	① 257.3 %	② 120.3 %
合計	1,061 人	834 人	360 人	① 294.8 %	② 127.3 %

※目標値の設定の有無

設定している

期間 基準	その他の場合の期間 その他の場合の基準				
<table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td style="text-align: center;">通年</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">指定管理者提案値</td></tr> </table>	通年	指定管理者提案値	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td style="text-align: center;"> </td></tr> <tr><td style="text-align: center;"> </td></tr> </table>		
通年					
指定管理者提案値					

利用状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	平成27年度に移転計画を予定しており、入所利用者の受入に調整を必要とすることから利用期間の限られる短期入所の受入拡大を図ったことにより増となった。
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	平成27年度に移転計画を予定しており、入所利用者の受入に調整を必要とすることから利用期間の限られる短期入所の受入拡大を図ったことにより増となった。

<参考>

施設の最大利用可能人数

								合計
定員(1日あたりの延べ人数)								0
年間利用可能日数								0
最大人数	0	0	0	0	0	0	0	0
半期	0	0	0	0	0	0	0	0

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

(5) 七沢療育園 (入所)

評価 **B**

(評価の目安)

今年度下半期利用者数が、
目標対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～95%未満
- D : 85%未満

(目標利用者数等を設定していない場合、前年同期対比増減率で)

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～95%未満
- D : 85%未満

(入所施設等定員がある場合、定員比で)

- A : 100%
- B : 90%以上
- C : 80%以上
- D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	1,179 人	1,158 人	101.8 %
11月	1,127 人	1,130 人	99.7 %
12月	1,157 人	1,193 人	97.0 %
1月	1,116 人	1,188 人	93.9 %
2月	1,065 人	1,089 人	97.8 %
3月	1,157 人	1,158 人	99.9 %
合計	6,801 人	6,916 人	98.3 %

	利用者数	前年同期利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
下半期計	6,801 人	6,916 人	6,734 人	① 101.0 %	② 98.4 %
上半期計	6,879 人	6,781 人	6,771 人	① 101.6 %	② 101.5 %
合計	13,680 人	13,697 人	13,505 人	① 101.3 %	② 99.9 %

※目標値の設定の有無

設定している

期間	通年	その他の場合の期間
基準	指定管理者提案値	その他の場合の基準

利用状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標対比増減率105%以上または95%以下)	×	×	×	
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	×	×	×	

<参考>

施設の最大利用可能人数

								合計
定員(1日あたりの延べ人数)								0
年間利用可能日数								
最大人数	0	0	0	0	0	0	0	0
半期	0	0	0	0	0	0	0	0

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

(6) 七沢療育園 (地域支援【短期入所、重心親子教室、療育訪問指導】)

評価 **A**

(評価の目安)

今年度下半期利用者数が、
目標対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～95%未満
- D : 85%未満

目標利用者数等を設定していない場合、前年同期対比増減率で
A : 105%以上
B : 95%以上～105%未満
C : 85%以上～95%未満
D : 85%未満

入所施設等定員がある場合、定員比で
A : 100%
B : 90%以上
C : 80%以上
D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	58 人	37 人	156.8 %
11月	75 人	42 人	178.6 %
12月	56 人	30 人	186.7 %
1月	85 人	19 人	447.4 %
2月	50 人	34 人	147.1 %
3月	87 人	42 人	207.1 %
合計	411 人	204 人	201.5 %

	利用者数	前年同期利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
下半期計	411 人	204 人	129 人	① 318.7 %	② 201.5 %
上半期計	357 人	197 人	129 人	① 276.8 %	② 181.3 %
合計	768 人	401 人	258 人	① 297.7 %	② 191.6 %

※目標値の設定の有無

設定している

期間	通年	その他の場合の期間
基準	指定管理者提案値	その他の場合の基準

利用状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	短期入所が平成25年7月以降市町村事業に移行し、従来の中期入所から短期入所に切り替わり利用者数が増えたこと、また、施設と利用者間で利用日程調整をさらに綿密にすることで、稼働日数が増えるように工夫したことにより増となった。
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	短期入所が平成25年7月以降市町村事業に移行し、従来の中期入所から短期入所に切り替わり利用者数が増えたこと、また、施設と利用者間で利用日程調整をさらに綿密にすることで、稼働日数が増えるように工夫したことにより増となった。

<参考>

施設の最大利用可能人数

								合計
定員(1日あたりの延べ人数)								0
年間利用可能日数								0
最大人数	0	0	0	0	0	0	0	0
半期	0	0	0	0	0	0	0	0

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

(7)七沢更生ライトホーム (入所)

評価 **B**

(評価の目安)

今年度下半期利用者数が、
目標対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～95%未満
- D : 85%未満

- 目標利用者数等を設定していない場合、前年同期対比増減率で
- A : 105%以上
 - B : 95%以上～105%未満
 - C : 85%以上～95%未満
 - D : 85%未満

- 入所施設等定員がある場合、定員比で
- A : 100%
 - B : 90%以上
 - C : 80%以上
 - D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	2,113 人	1,595 人	132.5 %
11月	1,945 人	1,616 人	120.4 %
12月	1,974 人	1,798 人	109.8 %
1月	1,959 人	1,895 人	103.4 %
2月	1,811 人	1,869 人	96.9 %
3月	1,815 人	2,030 人	89.4 %
合計	11,617 人	10,803 人	107.5 %

	利用者数	前年同期利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
下半期計	11,617 人	10,803 人	11,830 人	① 98.2 %	② 107.6 %
上半期計	11,597 人	9,775 人	11,895 人	① 97.5 %	② 118.7 %
合計	23,214 人	20,578 人	23,725 人	① 97.9 %	② 112.9 %

※目標値の設定の有無

期間	設定している	その他の場合の期間
基準	通年 指定管理者提案値	その他の場合の基準

利用状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標対比増減率105%以上または95%以下)	×	×	×	
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	従前から実施してきている利用者確保の一環で、回復期病棟の退院患者さんやご家族の方、ソーシャルワーカーを中心に施設での訓練内容や有効活用を積極的に紹介し、利用率の向上を図ってきたことにより増となった。

<参考>

施設の最大利用可能人数

								合計
定員(1日あたりの延べ人数)								0
年間利用可能日数								
最大人数	0	0	0	0	0	0	0	0
半期	0	0	0	0	0	0	0	0

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

(8) 七沢更生ライトホーム (地域支援【短期入所、通所、受託評価】)

評価 **D**

(評価の目安)

今年度下半期利用者数が、
目標対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～95%未満
- D : 85%未満

(目標利用者数等を設定していない場合、前年同期対比増減率で)

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～95%未満
- D : 85%未満

(入所施設等定員がある場合、定員比で)

- A : 100%
- B : 90%以上
- C : 80%以上
- D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	135 人	173 人	78.0 %
11月	136 人	148 人	91.9 %
12月	137 人	126 人	108.7 %
1月	130 人	111 人	117.1 %
2月	117 人	87 人	134.5 %
3月	159 人	104 人	152.9 %
合計	814 人	749 人	108.7 %

	利用者数	前年同期利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
下半期計	814 人	749 人	1,451 人	① 56.1 %	② 108.7 %
上半期計	863 人	1,066 人	1,452 人	① 59.5 %	② 81.0 %
合計	1,677 人	1,815 人	2,903 人	① 57.8 %	② 92.4 %

※目標値の設定の有無

設定している

期間	通年	その他の場合の期間
基準	指定管理者提案値	その他の場合の基準

利用状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	短期入所は空床利用であるため、入所利用者の受入増に伴い短期利用枠が減少したことにより利用人数には大幅な変動はないが利用日数が減少したことにより減となった。
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	利用者数全体は前年比較で減少しているが、平成26年2月及び3月の入所者の退所に伴い、空床利用として短期入所の受入を促進したことで前年同期利用者数を上回り増となった。(2月同月19人増(実3人増)、3月同月38人増(実7人増))

<参考>

施設の最大利用可能人数

							合計
定員(1日あたりの延べ人数)							0
年間利用可能日数							0
最大人数	0	0	0	0	0	0	0
半期	0	0	0	0	0	0	0

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

(9) 神奈川リハビリテーション病院 (入院)

評価 **C**

(評価の目安)

今年度下半期利用者数が、
目標対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～95%未満
- D : 85%未満

- 目標利用者数等を設定していない場合、前年同期対比増減率で
- A : 105%以上
 - B : 95%以上～105%未満
 - C : 85%以上～95%未満
 - D : 85%未満

- 入所施設等定員がある場合、定員比で
- A : 100%
 - B : 90%以上
 - C : 80%以上
 - D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	6,602 人	7,380 人	89.5 %
11月	6,668 人	7,203 人	92.6 %
12月	6,450 人	6,837 人	94.3 %
1月	5,907 人	6,562 人	90.0 %
2月	6,127 人	6,628 人	92.4 %
3月	6,771 人	7,345 人	92.2 %
合計	38,525 人	41,955 人	91.8 %

	利用者数	前年同期利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
下半期計	38,525 人	41,955 人	45,864 人	① 84.0 %	② 91.9 %
上半期計	40,323 人	43,343 人	46,116 人	① 87.5 %	② 93.1 %
合計	78,848 人	85,298 人	91,980 人	① 85.8 %	② 92.5 %

※目標値の設定の有無

	設定している	
期間	通年	その他の場合の期間
基準	指定管理者提案値	その他の場合の基準

利用状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標値対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	平成25年9月と12月に大学から派遣されている3名の内科常勤医師のうち2名が退職し、残る医師も平成26年3月に引上げ、今後の大学医局からの医師派遣は困難になったため、内科系および合併症がある患者の入院について受入者数を抑えざるを得ない状況が7月から発生した。また、外来患者数も減少したため外来受診から入院となる患者数も減少したため減となった。対応策としては、医師募集や人材派遣会社などに働きかけ医師の確保を行った結果、非常勤医師と常勤医師の確保をした。
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	平成25年9月と12月に大学から派遣されている3名の内科常勤医師のうち2名が退職し、残る医師も平成26年3月に引上げ、今後の大学医局からの医師派遣は困難になったため、内科系および合併症がある患者の入院について受入者数を抑えざるを得ない状況が7月から発生した。また、外来患者数も減少したため外来受診から入院となる患者数も減少したため減となった。対応策としては、医師募集や人材派遣会社などに働きかけ医師の確保を行った結果、非常勤医師と常勤医師の確保をした。

<参考>

施設の最大利用可能人数

							合計
定員(1日あたりの延べ人数)							0
年間利用可能日数							
最大人数	0	0	0	0	0	0	0
半期	0	0	0	0	0	0	0

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

(10) 神奈川リハビリテーション病院 (外来)

評価 C

(評価の目安)

- 今年度下半期利用者が、
目標対比増減率で
- A : 105%以上
 - B : 95%以上～105%未満
 - C : 85%以上～95%未満
 - D : 85%未満

目標利用者数等を設定していない場合、前年同期対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～95%未満
- D : 85%未満

入所施設等定員がある場合、定員比で

- A : 100%
- B : 90%以上
- C : 80%以上
- D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	7,450 人	7,037 人	105.9 %
11月	6,275 人	6,610 人	94.9 %
12月	6,282 人	6,157 人	102.0 %
1月	5,924 人	5,754 人	103.0 %
2月	5,564 人	5,962 人	93.3 %
3月	6,309 人	6,361 人	99.2 %
合計	37,804 人	37,881 人	99.8 %

	利用者数	前年同期利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
下半期計	37,804 人	37,881 人	43,200 人	① 87.6 %	② 99.8 %
上半期計	39,225 人	38,143 人	45,000 人	① 87.2 %	② 102.9 %
合計	77,029 人	76,024 人	88,200 人	① 87.4 %	② 101.4 %

※目標値の設定の有無

設定している

期間 <u> </u> 基準 <u> </u>	期間 <u> </u> 基準 <u> </u>
通年 指定管理者提案値	通年 指定管理者提案値

その他の場合の期間
 その他の場合の基準

利用状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標値対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	平成25年9月と12月に大学から派遣されている3名の内科常勤医師のうち2名が退職し、また、平成26年3月に大学派遣医師(内科常勤医師)1名も引上げ、今後の大学医局からの医師派遣は困難になったため、内科系および合併症がある患者について当院としては外来受入数を抑えざるを得ない状況が7月から発生し利用者数が減となった。対応策としては、医師募集や人材派遣会社などに働きかけ医師の確保を行った結果、非常勤医師と常勤医師の確保をした。
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	×	×	×	

<参考>

施設の最大利用可能人数

							合計
定員(1日あたりの延べ人数)							0
年間利用可能日数							0
最大人数	0	0	0	0	0	0	0
半期	0	0	0	0	0	0	0

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

(11) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター (入院)

評価 **D**

(評価の目安)

今年度下半期利用者が、
目標対比増減率で
A : 105%以上
B : 95%以上～105%未満
C : 85%以上～95%未満
D : 85%未満

(目標利用者数等を設定していない場合、前年同期対比増減率で
A : 105%以上
B : 95%以上～105%未満
C : 85%以上～95%未満
D : 85%未満

(入所施設等定員がある場合、定員比で
A : 100%
B : 90%以上
C : 80%以上
D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	3,457 人	4,661 人	74.2 %
11月	3,370 人	4,692 人	71.8 %
12月	3,402 人	4,606 人	73.9 %
1月	3,914 人	4,963 人	78.9 %
2月	4,289 人	4,866 人	88.1 %
3月	4,587 人	5,257 人	87.3 %
合計	23,019 人	29,045 人	79.3 %

	利用者数	前年同期利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
下半期計	23,019 人	29,045 人	32,032 人	① 71.9 %	② 79.3 %
上半期計	26,625 人	30,134 人	32,208 人	① 82.7 %	② 88.4 %
合計	49,644 人	59,179 人	64,240 人	① 77.3 %	② 83.9 %

※目標値の設定の有無

期間 設定している
基準 通年
指定管理者提案値
その他の場合の期間 基準
その他の場合の基準

利用状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標値対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	地域連携の進展や地域に回復期リハ病床増の影響により利用者ニーズが減少したこと、MRI (19年経過)、CT (13年経過)の医療機器の老朽化により診断能力が現在の機器の水準に比べ劣っており、入院中に再発等が生じる危険のある重症患者の受入れについて確定診断が困難であり他病院への転院となる患者が増加していることなどにより利用者の減となった。今後も紹介元病院との連携を強化し患者確保に努める。
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	地域連携の進展や地域に回復期リハ病床増の影響により利用者ニーズが減少したこと、MRI (19年経過)、CT (13年経過)の医療機器の老朽化により診断能力が現在の機器の水準に比べ劣っており、入院中に再発等が生じる危険のある重症患者の受入れについて確定診断が困難であり他病院への転院となる患者が増加していることなどにより利用者の減となった。今後も紹介元病院との連携を強化し患者確保に努める。

<参考>

施設の最大利用可能人数

							合計
定員(1日あたりの延べ人数)							0
年間利用可能日数							
最大人数	0	0	0	0	0	0	0
半期	0	0	0	0	0	0	0

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

(12) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター (外来)

評価 **D**

(評価の目安)

今年度下半期利用者数が、
目標対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～95%未満
- D : 85%未満

- 目標利用者数等を設定していない場合、前年同期対比増減率で
- A : 105%以上
 - B : 95%以上～105%未満
 - C : 85%以上～95%未満
 - D : 85%未満

- 入所施設等定員がある場合、定員比で
- A : 100%
 - B : 90%以上
 - C : 80%以上
 - D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	921 人	1,155 人	79.7 %
11月	585 人	873 人	67.0 %
12月	579 人	819 人	70.7 %
1月	567 人	779 人	72.8 %
2月	492 人	736 人	66.8 %
3月	609 人	788 人	77.3 %
合計	3,753 人	5,150 人	72.9 %

	利用者数	前年同期利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
下半期計	3,753 人	5,150 人	7,200 人	① 52.2 %	② 72.9 %
上半期計	3,843 人	4,666 人	7,500 人	① 51.3 %	② 82.4 %
合計	7,596 人	9,816 人	14,700 人	① 51.7 %	② 77.4 %

※目標値の設定の有無

期間	設定している	その他の場合の期間
基準	通年 指定管理者提案値	その他の場合の基準

利用状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標値対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	平成24年3月に医師3人(リハ科2人、神経内科1人)が退職したこと、平成25年4月から内科医師1名が神奈川リハ病院で外来受診を週2日開始したことなどから、外来患者数の減となった。 退院後のフォローアップは地域の病院が基本的に行うが、当院においてフォローアップが必要な患者は当院外来において行い、それらを通し外来患者の増を図るとともに、入院患者の増につなげるよう努める。
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	平成24年3月に医師3人(リハ科2人、神経内科1人)が退職したこと、平成25年4月から内科医師1名が神奈川リハ病院で外来受診を週2日開始したことなどから、外来患者数の減となった。 退院後のフォローアップは地域の病院が基本的に行うが、当院においてフォローアップが必要な患者は当院外来において行い、それらを通し外来患者の増を図るとともに、入院患者の増につなげるよう努める。

<参考>

施設の最大利用可能人数

							合計
定員(1日あたりの延べ人数)							0
年間利用可能日数							
最大人数	0	0	0	0	0	0	0
半期	0	0	0	0	0	0	0

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

4 利用者の満足度（アンケート結果）

(1) 七沢学園（児童・成人）

評価 **C**

（評価の目安）

「満足」（4段階評価及び5段階評価の場合、上位2段階）と答えた割合が

A：80%以上

B：60%以上～80%未満

C：40%以上～60%未満

D：40%未満 又は（A～Cにかかわらず）「不満足」と答えた割合が50%以上

－：今期は実施していない

	とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い	合計	上位2段階の割合
総合満足度の回答結果	30	5	11	4	5	55	35 (64.0%)
〔参考〕 上半期結果						0	0 ()

※今年度の実施予定

※配布・回収件数

※実施方法

上半期 回 下半期 回 その他
 配布 60 件 回収 55 件 回収率 91.7% %
 利用者等に配布 リストから選択 リストから選択 リストから選択

(2) 七沢療育園

評価 **A**

（評価の目安）

「満足」（4段階評価及び5段階評価の場合、上位2段階）と答えた割合が

A：80%以上

B：60%以上～80%未満

C：40%以上～60%未満

D：40%未満 又は（A～Cにかかわらず）「不満足」と答えた割合が50%以上

－：今期は実施していない

	とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い	合計	上位2段階の割合
総合満足度の回答結果	11	4	1	1	1	18	15 (84.0%)
〔参考〕 上半期結果						0	0 ()

※今年度の実施予定

※配布・回収件数

※実施方法

上半期 回 下半期 回 その他
 配布 30 件 回収 21 件 回収率 70.0% %
 利用者等に配布 リストから選択 リストから選択 リストから選択

(3) 七沢更生ライトホーム

評価 **C**

（評価の目安）

「満足」（4段階評価及び5段階評価の場合、上位2段階）と答えた割合が

A：80%以上

B：60%以上～80%未満

C：40%以上～60%未満

D：40%未満 又は（A～Cにかかわらず）「不満足」と答えた割合が50%以上

－：今期は実施していない

	とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い	合計	上位2段階の割合
総合満足度の回答結果	21	12	19	7	6	65	33 (51.0%)
〔参考〕 上半期結果						0	0 ()

※今年度の実施予定

※配布・回収件数

※実施方法

上半期 回 下半期 回 その他
 配布 78 件 回収 65 件 回収率 83.3% %
 利用者等に配布 リストから選択 リストから選択 リストから選択

(4) 神奈川リハビリテーション病院 (入院)

評価 **B**

(評価の目安)

「満足」(4段階評価及び5段階評価の場合、上位2段階)と答えた割合が

- A : 80%以上
- B : 60%以上~80%未満
- C : 40%以上~60%未満
- D : 40%未満 又は (A~Cにかかわらず) 「不満足」と答えた割合が50%以上
- : 今期は実施していない

	とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い	合計	上位2段階の割合
総合満足度の回答結果	67	38	29	6	2	142	105 (74.0%)
[参考] 上半期結果						0	0 ()

※今年度の実施予定 上半期 _____ 回 下半期 _____ 回 その他 _____ 回
 ※配布・回収件数 配布 193 件 回収 142 件 回収率 73.6% %
 ※実施方法 利用者等に配布 リストから選択 リストから選択 リストから選択

(5) 神奈川リハビリテーション病院 (外来)

評価 **A**

(評価の目安)

「満足」(4段階評価及び5段階評価の場合、上位2段階)と答えた割合が

- A : 80%以上
- B : 60%以上~80%未満
- C : 40%以上~60%未満
- D : 40%未満 又は (A~Cにかかわらず) 「不満足」と答えた割合が50%以上
- : 今期は実施していない

	とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い	合計	上位2段階の割合
総合満足度の回答結果	318	130	61	4	4	517	448 (87.0%)
[参考] 上半期結果						0	0 ()

※今年度の実施予定 上半期 _____ 回 下半期 _____ 回 その他 _____ 回
 ※配布・回収件数 配布 632 件 回収 517 件 回収率 81.8% %
 ※実施方法 利用者等に配布 リストから選択 リストから選択 リストから選択

(6) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター (入院)

評価 **B**

(評価の目安)

「満足」(4段階評価及び5段階評価の場合、上位2段階)と答えた割合が

- A : 80%以上
- B : 60%以上~80%未満
- C : 40%以上~60%未満
- D : 40%未満 又は (A~Cにかかわらず) 「不満足」と答えた割合が50%以上
- : 今期は実施していない

	とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い	合計	上位2段階の割合
総合満足度の回答結果	39	15	23	1	0	78	54 (70.0%)
[参考] 上半期結果						0	0 ()

※今年度の実施予定 上半期 _____ 回 下半期 _____ 回 その他 _____ 回
 ※配布・回収件数 配布 94 件 回収 78 件 回収率 83.0% %
 ※実施方法 利用者等に配布 リストから選択 リストから選択 リストから選択

5 苦情・要望等

評価 B

(評価の目安)

- A：要望等を積極的に把握して改善を行う等、サービス向上を図った。
- B：指定管理者に起因しない苦情・要望等があったが、適切に対応した（苦情・要望等がない場合も含む）。
- C：指定管理者に起因する苦情・要望等があったが、適切に対応した。または、指定管理者に起因しない苦情・要望等があり、適切に対応していない。
- D：指定管理者に起因する苦情・要望等があり、適切に対応していない。

七沢学園 児童

報告件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	簡易アンケート等	
上段：報告件数 下段：報告件数のうち所管課受付分	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)
〔参考〕上半期結果	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)

七沢学園 成人

報告件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	簡易アンケート等	
上段：報告件数 下段：報告件数のうち所管課受付分	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)
〔参考〕上半期結果	3 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)

七沢療育園

報告件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	簡易アンケート等	
上段：報告件数 下段：報告件数のうち所管課受付分	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)
〔参考〕上半期結果	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)

七沢更生ライトホーム

報告件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	簡易アンケート等	
上段：報告件数 下段：報告件数のうち所管課受付分	9 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (0)
〔参考〕上半期結果	12 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (0)

神奈川リハビリテーション病院

報告件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	簡易アンケート等	
上段：報告件数 下段：報告件数のうち所管課受付分	19 (0)	2 (0)	32 (0)	0 (0)	0 (0)	53 (0)
〔参考〕上半期結果	16 (0)	1 (0)	42 (0)	0 (0)	0 (0)	59 (0)

報告件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	簡易アンケート等	
上段：報告件数 下段：報告件数のうち所管 課受付分	1 (0)	2 (0)	11 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (0)
〔参考〕上半期結果	7 (0)	2 (0)	20 (0)	0 (0)	0 (0)	29 (0)

苦情・要望等への対応

該当あり

分野	概要	対応状況
施設・設備	利用者本人から「訓練していると暑くてたまらない。今日のような気温時はクーラーを入れてほしい。」との要望があった。	暖房の切り替え準備に入っており、冷房が使用できない状況であった。大型冷風扇機や扇風機の設置や窓の開放などで対応した。
職員対応	医師をはじめ、看護師、事務の方、予約センターの方など皆、親切で感謝しています。掃除も院内きれいで申し分ありません。	当該部署へ感謝のことばとして伝えた。
事業内容		
その他		

※ 指定管理者に起因するものは必ず記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

6 事故・不祥事等

評価

B

(評価の目安)

- A：事故・不祥事等を防止するために積極的に取り組み、事故等が発生しなかった。
- B：軽微な事故・不祥事等が発生したが、適切に対応した（事故等が発生していない場合も含む）。
- C：事故・不祥事等が発生したが、適切に対応した。または、軽微な事故・不祥事等が発生し、適切に対応していない。
- D：事故・不祥事等が発生し、適切に対応していない。

発生状況及び対応状況

該当なし

発生日	事故等の概要	原因・問題点	指定管理者の対応状況・改善策等

随時モニタリングの実施状況

該当なし

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果等
()		
()		
()		